

熊取町議会委員会会議録

都市計画道路建設促進特別委員会

平成29年6月14日開催

熊 取 町 議 会

目

次

[都市計画道路建設促進特別委員会]
都市計画道路の見直しについて「大阪岸和田南海線」「泉州山手線」…………… 1

都市計画道路建設促進特別委員会

月 日 平成29年6月14日（水曜）招集

場 所 熊取町役場北館3階大会議室

出席委員	委員長	渡辺 豊子	副委員長	浦川 佳浩
	委員	文野 慎治	委員	阪口 均
	委員	矢野 正憲	委員	河合 弘樹
	委員	坂上 巳生男		

欠席委員 なし

説明員	町長	藤原 敏司	副町長	中尾 清彦
	企画部長	貝口 良夫	総務部長	南 和仁
	総務部理事	塩谷 義和	都市整備部長	泉谷 徹
	都市整備部理事	阪上 敦司	まちづくり 計画課長	馬場 高章
	道路課長	山原 栄次		
事務局	局長	北川 雄彦	書記	藤原 孝二

付議審査事件

- 1) 都市計画道路の見直しについて「大阪岸和田南海線」「泉州山手線」

委員長（渡辺豊子君）皆様方には、本特別委員会にご出席を賜りまして、ありがとうございます。

本日の審議に当たりましては、議会委員会条例第19条の規定により、町長、副町長ほか関係職員の出席を求めています。

ただいまの出席委員は7名全員であります。定足数に達しておりますので、これより都市計画道路建設促進特別委員会を開会いたします。

（「14時18分」開会）

委員長（渡辺豊子君）本日の案件は、都市計画道路の見直しについて「大阪岸和田南海線」「泉州山手線」の件であります。

なお、発言される方は、必ずマイクを使っていただきますようお願いいたします。

それでは、本件について説明を願います。馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）それでは、都市計画道路の見直しについて「大阪岸和田南海線」「泉州山手線」について、ご報告させていただきます。

大阪府の都市計画道路は、急激に人口が増加し、交通量も増大していた高度経済成長期に数多くの都市計画決定がなされました。しかし、今後予想される少子高齢化や交通需要の減少等の社会経済情勢の変化を踏まえ、大阪府では平成23年3月に「都市計画道路見直しの基本方針」を策定し、長期未着手となっている都市計画道路について評価を行い、見直しを進めてきたところです。

本町におきましては、泉州山手線及び大阪岸和田南海線の大阪外環状線以北が未着手路線となっています。

続いて、1のこれまでの経過でございますが、①といたしまして「大阪岸和田南海線」、これは昭和45年、都市計画決定なされております。平成4年には事業化の位置づけがされまして、大阪外環状線から泉佐野市界まで、2行飛ばしまして第一期事業期間（バイパス区間・現道拡幅区間）から事業着手されているところでございます。

平成20年6月には、大阪府財政再建プログラムが策定され、公表され、平見地区芦谷北交差点か

ら泉佐野市界までの現道拡幅区間が「一時休止する事業」に位置づけられたところです。

平成22年12月には、バイパス区間が暫定2車線で供用開始され、続く24年3月、大阪府都市整備中期計画の策定、公表により、現道拡幅区間の「一時休止」から条件つきで「再開」とされたものです。

平成28年2月には都市計画変更が行われまして、これについては第二事業区間ですが、外環との立体交差が平面交差に改められ、幅員が22メートルから47メートルであったものが全て22メートルとなされたところです。

続きまして、その下、平成28年8月、大阪府都市整備中期計画（案）別冊参考資料の公表、位置づけがなされまして、この中で、第一期事業区間につきましては28年から32年度までの間に「概成」する路線、それから第二期事業区間につきましては同じく28年から32年度までの間に「着手」する路線と定められたところでございます。

続きまして、②「泉州山手線」ですが、こちらも昭和45年、都市計画決定なされております。

平成27年10月に「泉州山手線整備推進協議会」を設立したところです。こちらのほうは岸和田市、貝塚市、泉佐野市、熊取町、3市1町となっております。

1つ飛ばしまして、28年8月、先ほどと同じように大阪府都市整備中期計画（案）別冊参考資料が公表されまして、28年から32年度までの間に「着手」する路線と位置づけられたところです。この区間につきましては、最後、磯之上山直線から大阪外環状線までとなっております。

続きまして、2番の大阪府による都市計画道路の見直し（案）でございますが、資料1といたしまして、3ページに大阪府から提供されました図面を添付しておりますので、あわせてごらんいただきたいと思っております。

1)の都市計画変更の概要でございますが、図面の赤いライン、これが泉州山手線ですが、①泉州山手線については、「泉州山手線整備推進協議会」での地元3市1町の要望などにより、平成28年3月、先ほど申し上げました「大阪府都市整備計画中期計画」の中間見直しにおいて、平成28年から32年度までの間で着手する路線と位置づけられたことから、事業着手に向け、磯之上山直線から大阪外環状線の延長約10キロについて、8車線から6車線を4車線を基本に幅員を縮小し、熊取町域は4車線で幅を32メートルから31メートルに変更する案が示されたものでございます。

現時点の幅員につきましては、資料をさらにもう1枚めくっていただきまして、4ページ目に参考図をつけておりますので、あわせてごらんください。

続きまして、3ページの図面、黒い線のほうですね。破線でございます。大阪岸和田南海線でございます。

②「大阪岸和田南海線」。大阪岸和田南海線については、並行する泉州山手線とあわせた、大阪府による泉南地域全体の南北方向の広域道路ネットワークの見直し検証の結果、今後の交通需要に対して泉州山手線、岸和田南海線のいずれか1路線で交通処理可能となったことから、泉州山手線の事業着手に伴い、大阪外環状線以北の路線について都市計画廃止案が示されたものです。

廃止区間につきましては、6ページに図面をつけておりますので、ちょっと後ろへいってしまいますがごらんいただけたらと思っております。紙面の都合で右側がちょっと北になっておりまして、前のページの資料とちょっと地図の向きが違います。ご容赦ください。図面で引いております赤い線の部分が廃止の路線ということで、一部泉佐野市を含んだ状態となっております。

これにつきましては、今後のスケジュールですが、都市計画の手續といたしまして、平成29年7月下旬から8月上旬に向けて都市計画変更に係る地元説明会を実施の予定でございます。それに続きまして、29年8月下旬には大阪府都市計画公聴会が開かれる予定でございます。これらにつきましては、7月の広報でお知らせする予定となっております。

平成29年10月下旬から11月上旬におきましては都市計画案の縦覧及び意見書の提出、30年1月ごろを予定してございますが熊取町の都市計画審議会、それから2月には大阪府の都市計画審議会、30年3月ごろをめどに都市計画決定告示の予定となっております。

なお、こちらのほうに資料はございませんが、岸和田南海線の現在の進捗状況について報告させていただきます。

第一期事業区間、泉佐野市界から芦谷交差点までの現道拡幅区間約500メートルの南側、青葉台地区の反対側につきましては、未買収に係る用地測量を実施中であり、現在、段階的に境界立ち会いを実施中でございます。また、現道拡幅区間の北側の青葉台の区間につきましては、現在、現道拡幅区間南側で実施中の未買収地に係る用地測量の見込みが立った段階で、引き続き用地測量を実施する予定でございます。

なお、今年度におきましては、数件の物件移転補償及び事業用地取得に向け、交渉を行っているところでございます。

続きまして、第二期事業区間なのですが、府道泉佐野打田線から大阪外環状線まででございますが、府道泉佐野打田線から住吉川の区間につきましては、昨年度から引き続き用地測量作業を実施中で、現在、土地調査の完了の見込みが立ったところであり、今後、地権者等関係者と交渉を予定しているところです。住吉川から大阪外環状線の区間につきましては、府道泉佐野打田線から住吉川の区間の用地測量のめどが立った段階で引き続き用地測量に着手予定であります。実施時期につきましては、現在のところ未定となっております。

次、その他といたしまして、6ページの資料、先ほどの最後の資料をちょっと見ていただけたらと思います。都市計画図でございますが、赤線部分の岸和田南海線の大阪外環状線以北の都市計画廃止に伴いまして、現在、地図上黄色の第一種住居地域を、周辺の緑色の第一種中高層住居専用地域に用途地域の変更を予定してございます。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

委員長（渡辺豊子君）以上で説明を終わります。

それでは、質疑を行います。質疑はありますか。坂上委員。

委員（坂上巳生男君）ただいまご説明いただきまして、泉州山手線が5年以内に事業着手ということで、幅員縮小ということではありますけれども、4車線で事業着手ということが決まったということを受けて、説明の中にもありましたけれども、大阪岸和田南海線と泉州山手線と両方事業の必要はないだろうと、泉州山手線がある部分に関しては岸和田南海線を廃止するというので、図面で示されておりますが、その廃止というのは点線部分ですよ。その廃止の部分の上のほうに移譲と書いておりますけれども、この移譲というのはどういうことなんでしょうか、ご説明ください。

委員長（渡辺豊子君）馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）ご質問いただきました、図面上廃止の部分の上の移譲の部分でございますが、こちらのほうは、今回大阪府が都市計画を廃止するに伴って、岸和田市が岸和田市の区間のみを市決定として残すということで、移譲という形の表記にさせていただいております。

委員長（渡辺豊子君）坂上委員。

委員（坂上巳生男君）この部分も、これはまだ計画のまま道路はできていないということですかね。

委員長（渡辺豊子君）馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）はい。熊取の廃止計画のところから、貝塚地に入ったところから、ほぼ現道に沿う形になりまして、そこから、今移譲という表現をさせていただいているちょうど下のあたりやと思うんですけども、岸和田市域に入ったところから今とは違う道のところにもともと都市計画決定がされていたところでございます。その区間については、現在、整備されてございません。

以上でございます。

委員長（渡辺豊子君）よろしいですか。ほかに質疑はありますか。ありませんか。坂上委員。

委員（坂上巳生男君）この泉州山手線につきましても、熊取町ではずっとかねてからの要望事項であったわけなのですが、今回、大阪府の計画の見直しで事業着手区間に位置づけられたということは大変嬉しいんですが、前にも同じようなことを聞きましたけれども、事業着手ということで、果た

して5年以内にどの程度の事業着手になるのかなということが気にかかるころではあるんですが、その辺もし見通しがわかりましたらご説明願えますか。

委員長（渡辺豊子君）馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）泉州山手線につきましては事業着手ということで、今聞いている範囲では、今年度予備設計ということで道路の形を固めていく。次年度以降、事業認可を目指す。それ以後事業ということで聞いております。ただ、延長が10キロということでかなり長い区間になりますので、全線の開通には相当の期間を要するのではないかと今の時点では考えております。

委員長（渡辺豊子君）坂上委員。

委員（坂上巳生男君）そうしますと、事業着手とはいっても、5年以内にはまだ目に見えた変化といたしますか、用地交渉とかそんなところまではとてもいかないという、そういう感じなんですかね。

委員長（渡辺豊子君）馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）実際の事業のほうは大阪府が中心になって進めるということで、現時点で5年間にどの部分をどうということまで明らかになった情報はまだございません。ただ、私どもといたしましては、外環北の熊取町域につきましては、泉州山手線の用地の取得率は6割を超えているという現状が一方でございますので、それを最大限に生かして、お隣の貝塚市とも協力しながら、早期の整備をしていただくように引き続き要望してまいりたいと考えております。

以上です。

委員長（渡辺豊子君）いいですか。文野委員。

委員（文野慎治君）今のご答弁の関連なんですけれども、確認なんですけれども、過日のタウンミーティング等の中でも今馬場課長がおっしゃったような内容、加えてその理由づけの中に、貝塚市のせんごくの杜が防災拠点としての役割を担うんだと。だから、そういう意味でも、岸和田のところからの着手ということよりも、そして我が町の場合であれば、取得の予定区間のかなりの部分がもう既にニュータウンの中でも、私も質問等で言わせていただいた経過がありますけれども、そういう泉州山手線予定用地としての部分も確保された部分があるので、そこがせんごくの杜にも近いということからすれば、10キロの中でもかなり早い時期にせんごくの杜防災拠点ということから、また、もう一つの広域の幹線である外環状線については最優先というような意味合いで、タウンミーティング等の町長か担当のほうからの状況説明があった中で、住民の方からの質問についてのお答えの中であったときの感触として、改めてここでも確認したいんですけれども、そういうふうな最優先的に熊取地域がなるであろう、そして、その方向の要望を強く言うていくというふうな町側の決意でよろしいのでしょうか。

委員長（渡辺豊子君）泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君）はい。タウンミーティングでも町長のほうからそういうご発言があったところなんですけれども、まず、中期計画の見直しの中で、磯之上山直線から国道170号までのバイパス区間に着手というような表記と、もう一つは、地元市町村による災害時の活動拠点整備の具体化等にあわせ、都市計画変更など必要な手続の見込みが立った段階で事業内容を精査し、区間を定めて実施するという文言がございます。

この後のくだりの都市計画の変更というのが、ただいま着手、これから手続をやっていく、来年の2月をめどに変更をやっていく手続でございます。その前段の地元市町村による災害の活動拠点の整備の具体化というところが、今この泉州山手線、岸和田の磯之上山直線から国道170号の間で今具体的に公表されているのが、せんごくの杜の広域的な防災拠点を今後貝塚市がつくっていくと。その中でも、やっぱりそこに接続する広域道路の必要性を貝塚市のほうはかなり訴えられてございます。そんな中では、やはり広域道路ですから、広域道路と広域道路を結ぶということで、貝塚中央線から外環状線、熊取町の外環状線まで、その中でもやっぱり買収率の高い熊取町は、先ほど課長のほうからご説明させていただいたように6割の買収率がございまして、貝塚市の中でも貝塚中央線から外環まで、行政界までの間で、せんごくの杜を除いたところでも先行買収地がもうあると

いうことでお聞きしておりますので、条件的には貝塚中央線から外環状線までを着手していただけないかということの中で、希望も含めてそういうご説明をさせていただいてございます。

今後、また貝塚市とも協議を進めながら、今後どういう取り組みをやっていくかも含めまして協議を進めて、この区間についてまずは着手していただけるように、大阪府のほうにいろんな機会を使って要望してまいりたいと考えてございますので、議員皆様方にもその辺のご支援、よろしくお願いたします。

以上でございます。

委員長（渡辺豊子君）ほかに質疑はありませんか。矢野委員。

委員（矢野正憲君）文野委員からもいろいろ話ありましたし、あれなんです、一般質問の中でもやっただんですが、28年度から32年のこの5カ年の中で着手をするというふうな形になっています。都市計画の手続のスケジュールを見ると、ことしの夏ごろから来年の3月ぐらいまで、いろんな形で審議会等も予定をされております。やはり住民説明会ですよね。地元に関する説明会というふうなことをやはりしっかりやっておいていただかないと、着手したくてもそれがまた1年ずれる、2年ずれるというふうなことになってしまうと、なかなか道自体がもう進まなくなるというふうな考えます。

やはりそういった意味では、これを見ていると平成31年ごろから着手するのかなというふうなことを思うんですけども、というふうにするのであれば、やはり皆さんもしっかり努力をさせていただいて、住民の皆さんにもしっかり説明をされて納得をしてもらうようなやはり説明会というのは、十二分に気をつけてやっていただきたいというふうなことはちょっと申し添えておきたいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長（渡辺豊子君）ほかに質疑はございませんか。

（発言する者なし）

それでは、すみません、ここで議事の都合により、一時議事の進行を副委員長にお願いいたします。

副委員長（浦川佳浩君）委員長から指名がありましたので、一時副委員長の私が議事を進行いたします。渡辺委員。

委員（渡辺豊子君）まずもってちょっと説明していただきたいことは、岸南線と泉州山手線、本当に熊取町においては両方必要な路線かと思うんですが、その中で、まずこの岸南線、外環から以北の分、廃止というふうになったというご報告をいただいたんですが、そのご報告内容の中で、今後の交通需要に対して、泉州山手線、岸和田南海線のいずれか1路線で交通処理可能となったというふうに結論されているんですが、その辺のところ、何をもってそのように1路線で交通処理可能となったと判断されたのか、ちょっとご説明を、府のほうでどのようにご説明をされたのか教えていただけますでしょうか。

副委員長（浦川佳浩君）馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君）はい。先ほど資料の冒頭のほうで説明させていただきました将来の交通量予測、このあたりを、私どもも大阪府のほうへ具体的にどういう手順でどういうふうにされているんでしょうかということでお尋ねさせていただいたところです。それで、簡単に申しますと、平成17年度に全国的に交通量の調査をした実績がございまして、これに対して、平成42年を目標に一定のシミュレーションをした結果、数的に2路線なくても交通処理ができるというふうな結果に至ったというふうに聞いております。

それで、本来であれば通行量、もう少し細かい数字の部分をきょうお示しできたらいいんですけども、それにつきましては、大阪府のほうで私どもと一緒に7月の後半に住民説明会をさせていただく準備を今まさにしているところでございまして、いまだちょっとそういう数字の細かいデータについてはご提供を受けていない状況なんです。ただ、基本的にはそういう形で、一定の現状調査をもとに将来の予測というのをこの段ですて、交通のネットワーク上の分散というふうなことも

一定考慮した上で、数字に基づいて1路線でということに、結果になったというふう聞いております。

以上でございます。

副委員長（浦川佳浩君） 渡辺委員。

委員（渡辺豊子君） はい、わかりました。数字的に予測されてそういう結果になったというところ、また数字的なものがわかったら教えていただきたいと思うんですが。

その中で、分散させてというところなんですが、この図を見たときに一番交通渋滞が起きるであろうと予測されるのが、やっぱり外環になってくるかと思うんですね。岸南線の以北が廃止されて、またその車は、外環と岸南線の合流点は外環です。また、その外環から東のほうに行ったら泉州山手線があるかもわかりませんが、将来着手するという形で、31年ごろから着手ということで今も説明ありましたが、結局流れてくるのが、その泉州山手線から外環に流れてくる合流地点が、今真ん中の外環のところの間に挟まれたところ、ここがもう今でも交通、車線が2車線しかないので交通渋滞が起きている中で、今この線がぐいちに交差された形で、2路線の合流の地点がこの間に偏ってくるときに、これを何とかやっぱり、交通渋滞を緩和するのはやっぱり外環の4車線化しかないですよ。

だから、これをその計画、今この計画とあわせて4車線化を進めてくれることも条件として、まずもってこれは条件ですわ。4車線化してくれないことにはこれ、廃止は認められませんよというような形でもって言うべきかと思うんですが、その辺の状況はどうなんでしょうか。

副委員長（浦川佳浩君） 馬場まちづくり計画課長。

まちづくり計画課長（馬場高章君） 今おっしゃっていただいたとおりに私どもも実は思っておりまして、もちろん3市町で泉州山手線の早期実現ということで継続的に要望しているところでございますが、その段では、私どもまず申し上げるのは、岸和田南海線の二期区間の全通、それから懸案である大阪外環状線の4車線化、それなくして泉州山手線整備というのはやはり物理的に成り立たないですよねということを再三申し上げておりまして、それについては一定大阪府もご理解をいただいているものと思っております。それ3つがそろって、初めて大阪府がおっしゃる広域の交通ネットワークということになるのではないかとということで申し上げているところでございます。

副委員長（浦川佳浩君） 渡辺委員。

委員（渡辺豊子君） はい、わかりました。これ絶対この部分、もう今でも渋滞中なので、この分の解消はしっかりと条件として言っていないといけないと思っておりますので、また議員としても、この議会としても、委員会のできるのかどうかわかりませんが、要望活動をしていきたいなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

副委員長（浦川佳浩君） 泉谷都市整備部長。

都市整備部長（泉谷 徹君） はい。外環の4車線化なんですけれども、これにつきましては、現在の変更されました中期計画にはうたわれてございません。あくまでも岸南の外環まで、二期工事の着手、それと泉州山手線の着手だけしかうたわれてございません。ただ、課長からもご説明がありましたように、外環の4車線化というのは、岸和田南海線ができた段階ですぐに4車線化にもう入っていくというところで大阪府のほうからは意見はいただいております。ただ、この5年間に完了できるかどうかというのが、岸和田南海線が完了できるかどうかというのが明確にはまだわかりませんので、それがわかった時点でこの中期計画等にも位置づけをやっていくけれども、基本的には岸和田南海線が外環まで4車線化になったときには、速やかにもう外環の4車線化に入っていくというところでございます。

また、外環におきましては、もう用地買収は全て4車線の分で終わってございます。ですから、工事のほうに入っていくというところで、そういうふうな感じで今のところは伺っております。

以上でございます。

副委員長（浦川佳浩君） いいですか。それでは、以後の議事の進行は委員長に申し上げます。

委員長（渡辺豊子君）はい、わかりました。しっかりとまた要望をしていきたいと、そういうふうな検討をされているかもわかりませんが、しっかりやっぱり要望はしていかないといけないと思います。ほかに質疑はありませんか。

（発言する者なし）

質疑なしと認めます。以上で質疑を終わります。

これをもって、都市計画道路の見直しについて「大阪岸和田南海線」「泉州山手線」の件を終了いたします。

以上で本日の案件が終了いたしました。

委員長（渡辺豊子君）そのほか、何かご報告等があれば承ります。

（発言する者なし）

ないようですので、以上で都市計画道路建設促進特別委員会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

（「14時47分」閉会）

以上の委員会の次第は議会事務局長の記載したものであるが、その内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

都市計画道路建設促進特別委員会委員長

渡辺豊子